

# 森 り よ う じ

## 森 が 動 く。



副議長

流山市議会議員

討議資料

当市は平成 33 年に小学校 1 校、平成 34 年に中学校 1 校が開校される予定であり、市議会では積極的な議論が行われています。課題の一つが開校に伴う学区の設定であり、中には仲良しの友達と離れ離れになるケースもあります。江戸川台で育った私も 30 年以上前、その経験をした一人でした。

# 森りょうじ リポート。(90号)

平成30年4-6月号

～ 皆さんと一緒に、森も動く。～

## ■任期最後の年がスタート！

今任期の集大成である 4 年目を迎えました。改めて身が引き締まる思いです。今期後半は副議長の立場となったこともあり、議会での質問の機会が無くなるなど環境の変化もありますが、残り一年も様々な機会を通じて公約の実現に向けて行動して参ります。自らの取り組みや活動に自信を持ち“威風堂々”としていたいものです。

## ■平成30年度予算が成立。※詳細は裏面で特集

過去最大規模となった約 555 億円の平成 30 年度予算を承認しました。人口増に伴う子育て支援策の充実、新学校建設や都市基盤整備が更に進む一年になります！

## ■高齢化社会を支える、ぐりーんバスへ。

“市民の足”として定着しているぐりーんバス。現在の運賃は 160 円ですが、今定例会の一般質問で市長より『高齢者割引制度を検討する』との答弁がありました。社会情勢の変化(地域の高齢化)を受けて、2 年前より訴えてきた施策が具現化しそうです。今後は“高齢化社会を支える足”にもなることを願っています。



## ■陳情・市民相談に応じています！※一部抜粋

- ①小学校の安全対策(速度規制エリアの設置など)
- ②市民団体(文科系・まちづくり系など)の活動支援

○1976 年 6 月 12 日流山生まれ(41 歳)

※サラリーマン家庭(父は NTT に勤務)で育つ  
流山市立新川小、流山市立北部中卒業  
日本大学第一高校、武蔵大学経済学部卒業

○2000 年 4 月 大成建設株式会社に入社(管理部ほか)

○2003 年 4 月 流山市議会議員に初当選(2,692 票)

○2011 年 4 月 流山市議会議員二期目当選(4,508 票)

○2015 年 4 月 流山市議会議員三期目当選(5,830 票)

※政治理念はケネディ大統領の「国が何をしてくれるかではなく、自分が国のために何ができるか」。

○後援会事務所:流山市中野久木 559-2

討議資料

## 定例会ダイジェスト①

【平成30年度予算審査の現場より】

第1回定例会（2月15日～3月19日）は議案38件を審査。今回は議案3件を特集します。

### 平成30年度一般会計予算歳入（収入）

平成30年度も人口増や区画整理事業の進展に伴う使用収益の開始により、市税収入の堅調な伸びを感じる内容（前年度比3.9%増の10.1億円）でした。大型マンション建設は落ち着きを見せるようですが、平成29年一年間で4,900人増の勢いは、今年度も継続されそうです。

また少し専門的になりますが、市税収入が増えると国からの支援（交付金など）は減らされる傾向にあります。公共施設等を整備する必要からそれに伴う財政支援があり、結果として国や県からの支援金が増えることとなり、歳入増加の要因ともなりました。

### 平成30年度一般会計予算歳出（支出）

人口増加に伴い子育て支援策の保育施設整備と保育士を確保するための処遇改善（月額4.3万円増）、新設学校用地取得や学童クラブ整備などで大きな費用が発生します。また高齢者や障がい者（児）への支援策の充実により民生費は前年度比10.8%の伸び率になっています。団塊世代の方が後期高齢者となる2025年問題（当市で75歳以上の方が約3万人）が迫る中、福祉関連費用はしばらく伸び



※市内各校で進む校舎増築工事

続けそうです。また土木費では都市計画道路整備や、木造住宅の耐震改修補助事業等も見られました。その他、個人的に以下の点に留意しながら審査した上で、賛成の立場をとりました。

- ① 貯金の取り崩しを抑える姿勢の予算編成
- ② 災害対応（自助・共助・公助の強化）の推進
- ③ 次期総合計画（H32～開始）策定に着手
- ④ 公共施設の整備・更新費を見据えた積立
- ⑤ 行政運営・公共施設運営での民間活力の導入
- ⑥ 新線沿線の区画整理事業の確実な推進姿勢

WebSite「森りょうじ」を検索！  
また Twitter・Facebook も更新中！

## 定例会ダイジェスト②

【市民経済委員会の現場より】

### 通称“墓地条例”の改正

今回の一部条例改正は墓地建設の許可対象を納骨堂にまで広げるものでした。これは建設に伴うトラブルが生じないような対策となっており、住民の不安解消に繋がるものと思われます。墓地や納骨堂の建設に関しては、必要な施設であることは認識しつつも、建設場所を決めるに際しては慎重な対応が求められることは言うまでもありません。そこで本市では平成13年に「流山市墓地等の経営の許可等に関する条例」を制定、平成20年に改正を行い、良質なまちづくりに努めてきました。

一方、近年では墓地等の経営や運営を巡り全国各地でトラブル（寺院の名義貸しや運営事業者の倒産により、購入者が墓地に入れずなど）や課題（生前に墓地などを購入していても、家族や関係者に情報を共有していないことから無縁遺骨に…等）が生じており、行政に対応が求められる事例も増えています。

本市でも前述のように『2025年問題』が指摘されており、安心して住み続けられる価値の高い街を目指す上でも、様々な対応が求められそうです。なお2点を要望し賛成しました。

- ① 墓地や納骨堂事業者の許可審査の厳格化
- ② 自身の没後や墓地に対する意識調査の実施

### 国民健康保険特別会計予算と条例改正

国民健康保険制度は大変革の年になります。簡潔に言えば、同制度の運営主体を市から県に移行（広域化）し、財政基盤を安定させ持続可能な制度の構築を図るものです（説明では被保険者への影響は限定的とのこと）。ただし同制度の現状は①②に見られるように、今後も厳しい状況が予想されます。

- ① 被保険者（保険加入者）の高齢化に伴う後期高齢者医療制度への移行（加入者の減少）
- ② 加入世帯数の減少（H28年度末で31.4%）

よって制度改革後の動向も継続的にチェックしていく責任があります。（議案は賛成）

【連絡先】TEL & FAX: 7155-3236  
Mail: ryoji612@peach.ocn.ne.jp